令和７年度 三木市における全国学力・学習状況調査の結果

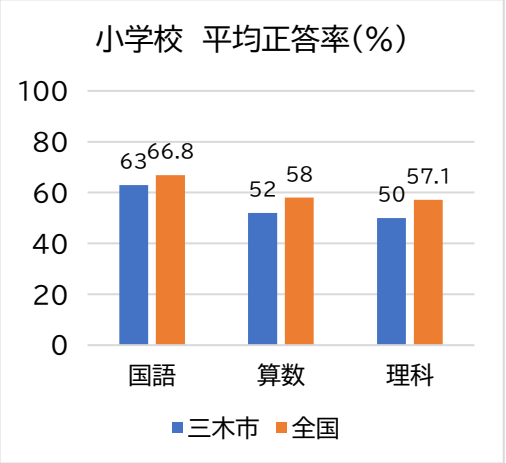
三木市教育委員会

令和７年度の全国学力・学習状況調査についてお知らせします。この調査は、子どもたちの学力・学習状況等を分析し、三木市の教育の改善を図ることを目的としています。

実施教科が限られていることなどから、調査は学力や学習状況の一端を示すものになりますが、現状を知るうえで欠かせない調査です。

この結果を、今後の授業改善や学校と家庭の更なる連携を考えるきっかけとし、三木市の教育がめざす「主体性・協働性・創造力」を育む教育を一層進めてまいります。

教科に関する調査（小学校）の結果

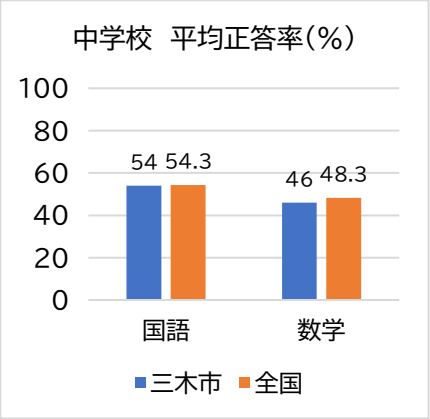


国語科は、子どもたちが「話の内容を意図に合わせて理解すること」や「目的に応じて必要な情報を探し出すこと」に課題が見られました。国語では、文章や資料を読み解くだけではなく、そこから得た情報や自分の意見を論理的に整理して分かりやすく発信する能力が求められています。今後は、文章の要約や、読んだことについて「なぜそう思ったのか」を話し合う活動、自分の考えを短い文章でまとめる学習を通して、自分の考えを整理して表現する力を一層高めていくことが、重要です。

算数科では、複雑な図形の面積を求める際に「どのように分割すれば計算できるか」を説明することや、コンパスや定規を正確に使って作図すること、そして、小数・分数・百分率といった割合の考え方を実際の場面で活用することに課題が見られました。学習を通して、「なぜその式になるのか」「どう考えれば答えにたどり着くのか」という道筋を、図や言葉で論理的に説明する力を着実に伸ばしていくことが重要です。

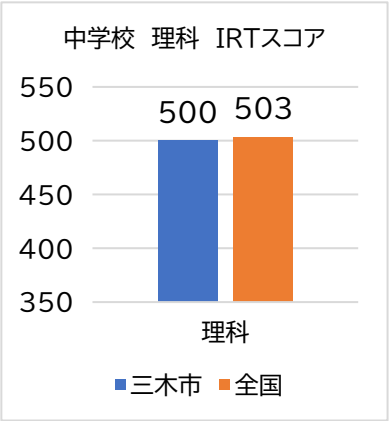
理科では、「金属にはどのような性質があるか（電気を通す、磁石に引き付けられるなど）」や、「乾電池の直列つなぎと並列つなぎでは、どちらが電磁石を強くできるか」といった、実験の土台となる基礎的な知識の定着に課題がありました。実験を自分で計画する力や、得られた実験結果という事実をもとに結論や理由を導き出す科学的な思考力も、これから重点的に身に付けていく必要があります。また、観察や実験を通して「なぜそうなるのか」を考える力を養い、子どもたちの探究心をさらに育てていくことが大切です。

教科に関する調査（中学校）の結果



国語は、「文章を読み手の立場に立って整える力」において、高い成果が見られました。さらに「伝えたいことを目的に応じて明確にする力」や「登場人物の設定をとらえる力」も、力がついています。これらを土台にしながら、文章全体をより深く読み取り、自分の考えを豊かに表現する力をさらに伸ばしていくことが重要です。

数学科は、文字式や多角形の角度に関する問題において正答率が高く、強みが見られました。一方で「素数や相対度数の意味」「問題解決の方法を説明する力」に課題があります。日常生活や社会と結びつけながら、考え方をわかりやすく説明する力を育てることで、数学的な思考を一層豊かにしていくことが大切です。



理科は、今年度からタブレット端末を使った調査（CBT 方式）で行われ、結果は全国と同程度でした。特に「気体の密度を図から読み取る力」では大きな成果が見られました。一方、「生物の生命維持の仕組み」や「身近な事象から課題を見出す力」には課題があります。実験や観察を通じて「どうしてそうなるのか」を探究する学びを重ねることで、科学的に考える力をさらに伸ばしていくことが大切です。

IRT（項目反応理論）スコアとは、子ども一人一人の答え方をもとに学力を数値化する方法です。結果は「500」を基準とした得点で示され、問題が違っても同じ尺度で比べられるようになります。
詳細は、文部科学省ＨＰをご覧ください。
https://www.mext.go.jp/content/20250710-mxt_chousa02-000043584.pdf

教科に関する調査のまとめ

子どもたちは、国語科や算数科・数学科、理科の基礎的な知識や技能をしっかりと身につけ、活用できる力も少しずつ伸ばしています。例えば、中学校の国語では文章を整える力、数学では数量や角度の活用、理科では気体の密度を読み取る力などに成果が見られます。小学校でも、国語の読み取りや算数の小数・分数など、着実な学びの積み重ねが見られます。

一方で、知識を自分の言葉で説明する力や、理科で実験をもとに考えを深める力には課題があります。

学校の授業では、基礎的な力を確実に定着させながら、子どもたちが「なぜ？」を考え、自分の言葉で表現できる「深い学び」を大切にしていくことが重要です。

調査結果をふまえた今後の取組

この調査結果から見えてきた課題は、「自分の考えを表現する力」と「それを分かりやすく説明する力」でした。これらは、三木市がめざす「主体性・協働性・創造力」の育成に大きく関わっています。そこで、次の視点でよりよい授業づくりやご家庭との連携した環境づくりをめざしていきます。

自分の考えを表現する力の育成

三木市では、全ての子どもたちが自分自身の考えを表現し、主体的に学びに参加できる授業づくりに取り組んでいます。

授業では、グループ活動やペアでの対話を取り入れ、子どもたちが自分の意見を話す機会を大切にしています。先生は「あなたはどう思う？」「なぜそう考えたの？」と問いかけ、子どもたちの言葉から授業を展開していきます。答えが一つではない問いを設定し、一人一人が深く考える力と表現する力を養っていきます。

また、授業の終わりには「今日の学び」や「新たな気づき」を言葉にする時間を設け、学んだことを自分の中で整理し、確かな理解へと繋げています。

この学びをご家庭にも繋げていきたいと考えています。日常の会話の中で「今日はどうだった？」「どう思った？」と、ぜひ子どもの気持ちや考えを引き出す会話を増やすなど、学校と家庭で連携して「考えを引き出す・受け止める」環境づくりを行うことで、子どもたちが自分の考えを表現する力の育成に繋げていきたいと考えています。

自分の考えをわかりやすく説明する力の育成

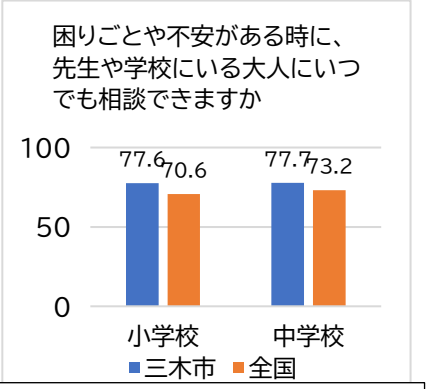
授業では「話す」「書く」といった表現活動を大切にしています。その全ての土台となるのが、「自分の考えを話しても大丈夫」と子どもたちが感じられる安心感です。

学校では、先生が子どもたちの話を「最後まで聞く」「まずは受け止める」ことを大切にし、自分の考えを聞いてもらえるという信頼関係を築いています。

話せる安心感を土台として、授業では一歩進んだ表現力を育てます。例えば、実験の報告では「①予想 ②手順③結果④考察」という流れで発表したり、自分の考えを図に示したりする等、頭の中の考えを整理し、相手が理解しやすいように構成する力を養います。

ご家庭でも、「どうしてそう思ったの？」といった会話から、子どもなりの答えを温かく受け止めていただき、安心して話せる環境づくりをともにつくっていきたいと思います。

家庭と学校で「対話の文化」を育むことで、社会で必要とされるコミュニケーション能力を高めていきます。



学力・学習状況調査　質問紙調査より